

平成 30 年度

野田村内道路橋定期点検結果

～2.0m以上 14.5m未満～

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 05' 20"		
				経度	141° 47' 46"		
沢山橋 (フリガナ)サワヤマバシ		村道三日市場沢山線	岩手県九戸郡野田村大字野田				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
岩手県野田村	2018.9.4	河川	有	一般道	その他	無	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

		点検者	株式会社一測設計		点検責任者	岡山 桂介	
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	I					
	横桁						
	床版						
下部構造		I					
支承部		I					
その他		I					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 道路橋の機能に支障は生じていない。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
I			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2017	5m	4.00m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 05' 30"		
				経度	141° 49' 06"		
下向橋 (フリガナ)シモムカイバシ		村道土内米田線	岩手県九戸郡野田村大字野田				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
岩手県野田村	2018.9.4	河川	有	一般道	その他	水道管	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

		点検者	株式会社一測設計		点検責任者	岡山 桂介	
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	I					
	横桁						
	床版	II	漏水・遊離石灰	写真1、床版0101			
下部構造		I					
支承部		I					
その他		I					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
II	間詰め床版より漏水が生じている。予防保全の観点から漏水対策実施が望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
不明	14m	4.00m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 05' 31"		
				経度	141° 49' 10"		
中米田橋 (フリガナ)ナカマイタバシ		村道米田保育所線	岩手県九戸郡野田村大字野田				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
岩手県野田村	2018.9.4	河川	有	一般道	その他	無	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				株式会社一測設計		点検責任者		岡山 桂介	
点検時に記録				措置後に記録					
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)		措置後の 判定区分		変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	I							
	横桁								
	床版	I							
下部構造		I							
支承部		I							
その他		II	土砂詰まり	写真1、排水柵					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
I	排水柵に土砂詰まりが見られる。維持工事での対応が望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
2002	13m	5.25m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 04' 54"		
				経度	141° 49' 27"		
上代川橋 (フリガナ)カミシロカワバシ		村道玉川米田線	岩手県九戸郡野田村大字玉川				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
岩手県野田村	2018.9.5	河川	有	一般道	その他	無	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

		点検者	株式会社一測設計		点検責任者	岡山 桂介	
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	II	ひびわれ	写真1、頂版			
	横桁						
	床版						
下部構造		II	ひびわれ	写真2、側壁(A1)			
支承部							
その他		II	ひびわれ	写真3、地覆			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
II	主桁(頂版)、下部工(側壁)は、ひびわれが多数見られる。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1989	3m	10.50m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 05' 24"		
				経度	141° 48' 52"		
上米田橋 (フリガナ)カミマイタバシ		村道玉川米田線	岩手県九戸郡野田村大字野田				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
岩手県野田村	2018.9.4	河川	有	一般道	その他	水道管	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

		点検者	株式会社一測設計		点検責任者	岡山 桂介	
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	I					
	横桁						
	床版	II	漏水・遊離石灰	写真1、床版0101			
下部構造		I					
支承部		I					
その他		I					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
II	間詰め床版より漏水が生じている。予防保全の観点から漏水対策実施が望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1987	9m	7.00m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 04' 59"		
				経度	141° 49' 31"		
上代1号橋 (フリガナ)カミシロ1ゴウバシ		村道上代川線	岩手県九戸郡野田村大字玉川				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
岩手県野田村	2018.9.5	河川	有	一般道	その他	無	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

		点検者	株式会社一測設計		点検責任者	岡山 桂介	
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	I					
	横桁						
	床版						
下部構造		I					
支承部							
その他		II	ひびわれ	写真1、翼壁0101			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
I	翼壁にひびわれが見られる。ひびわれ幅は大きい、1方向の鉛直ひびわれであり進行性は低いと考えられる。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	終点		起点
不明	3m	4.60m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 04' 58"		
				経度	141° 49' 29"		
上代2号橋 (フリガナ)カミシロ2ゴウバシ		村道上代川線	岩手県九戸郡野田村大字玉川				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
岩手県野田村	2018.9.5	河川	有	一般道	その他	無	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

		点検者	株式会社一測設計		点検責任者	岡山 桂介	
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	I					
	横桁						
	床版						
下部構造		I					
支承部							
その他		I					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 軽微な損傷はあるが、道路橋の機能に支障は生じていない。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
I			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
不明	3m	4.00m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 03' 25"		
				経度	141° 48' 57"		
根井橋 (フリガナ)ネイバシ		村道玉川根井線	岩手県九戸郡野田村大字玉川				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
岩手県野田村	2018.9.5	河川	有	一般道	その他	無	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者		株式会社一測設計		点検責任者		岡山 桂介	
点検時に記録				措置後に記録			
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日	
上部構造	主桁	I					
	横桁						
	床版						
下部構造	I						
支承部							
その他	I						

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 軽微な損傷はあるが、道路橋の機能に支障は生じていない。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
I			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
不明	3m	6.30m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 03' 45"		
				経度	141° 50' 39"		
銭神跨線橋 (フリガナ)ゼニガミコセンキョウ		村道銭神線	岩手県九戸郡野田村大字玉川				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
岩手県野田村	2018.10.15	鉄道	有	一般道	その他	無	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

		点検者	株式会社一測設計		点検責任者	岡山 桂介	
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	III	剥離・鉄筋露出	写真1、主桁19			
	横桁						
	床版	II	漏水・遊離石灰	写真2、床版18			
下部構造		III	剥離・鉄筋露出	写真3、A1橋台			
支承部		I					
その他		III	腐食	写真4、防護柵			

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
III	下部工の鉄筋露出、防護柵の腐食は損傷が著しいため、 早期の補修が望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1971	9m	5.50m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 05' 47"		
				経度	141° 49' 29"		
米田橋 (フリガナ)マイタバシ		村道米田海岸線	岩手県九戸郡野田村大字野田				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
岩手県野田村	2018.10.30	河川	有	一般道	その他	上水道管	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

		点検者	株式会社一測設計		点検責任者	岡山 桂介	
点検時に記録				措置後に記録			
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	I					
	横桁						
	床版	I					
下部構造		I					
支承部		I					
その他		I					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 道路橋の機能に支障は生じていない。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
I			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1989	14m	6.00m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 05' 25"	
				経度	141° 49' 33"	
米田陸橋 (フリガナ)マイタリッキョウ	村道土内線	岩手県九戸郡野田村大字野田				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
岩手県野田村	2018.10.16	鉄道	有	一般道	その他	上水道管

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				株式会社一測設計		点検責任者		岡山 桂介	
点検時に記録				措置後に記録					
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)		措置後の 判定区分		変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	I							
	横桁								
	床版	II	漏水・遊離石灰	写真1、床版19					
下部構造		II	剥離・鉄筋露出	写真2、A1橋台					
支承部		I							
その他		III	腐食	写真3、防護柵					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
II	防護柵の腐食は損傷が著しいため、早期の補修が望ましい。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1970	8m	6.00m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

平成 30 年度
野田村内道路橋定期点検結果
～14.5m以上～

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 04' 35"	
				経度	141° 49' 34"	
玉川橋 (フリガナ)タマガワバシ	村道石角山2号線	岩手県九戸郡野田村大字玉川				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
岩手県野田村	2018.11.1	河川	有	一般道	その他	水道管

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				株式会社一測設計		点検責任者		岡山 桂介	
点検時に記録				措置後に記録					
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)		措置後の判定区分		措置及び判定実施年月日	
上部構造	主桁	III	腐食	写真1、アーチ(補剛桁)					
	横桁	III	腐食	写真2、2径間横桁0206					
	床版	II	床版ひびわれ、鉄筋露出	写真3、2径間床版0410					
下部構造		III	変形・欠損	写真4、P1橋脚基礎					
支承部		I							
その他		II	土砂詰まり	写真5、排水柵					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
III	主桁、横桁、アーチ等の鋼部材は板厚減少を伴う腐食が見られる。 下部工は橋脚基礎に変形・欠損が見られる。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1957	60m	6.00m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	40° 03' 20"	
				経度	141° 48' 08"	
玉川千仞橋 (フリガナ)タマガワセンジンバシ		村道沢山根井線	岩手県九戸郡野田村大字玉川			
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
岩手県野田村	2018.11.2	河川	有	一般道	その他	有(農業用水)

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				株式会社一測設計		点検責任者		岡山 桂介	
点検時に記録				措置後に記録					
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)		措置後の 判定区分		措置及び判定 実施年月日	
上部構造	主桁	II	ひびわれ、鉄筋露出	写真1・2、主桁					
	横桁	I							
	床版	II	漏水・遊離石灰	写真3、床版(箱桁内上面)					
下部構造		I							
支承部		I							
その他		II	土砂詰まり	写真4、舗装					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等) 主桁端部側面にひびわれ、箱桁内部に鉄筋露出が見られる。 予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
II			

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1995	108m	5.00m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。